（個別研修）鳥居いづみ

研修テーマ：知的障害を持つ人が地域で暮らすための環境整備とサービス提供について
－サービス提供分野の垣根を超えた連携、地域とのつながり―

研修地　：ドイツ　ヘッセン州　ヘルプシュタイン・シュトックハウゼン、アルテンシュリーフ
研修施設：Gemeinschaft Altenschlirf（人智学共同体、障害者支援団体）
研修日　：5 月 15 日～6 月 20 日

【人智学（アントロポゾフィー）共同体について】

人智学とは、ルドルフ・シュタイナーが自身の思想を指した言葉として有名になった。その一部である「人間が人間であること」という概念に基づき、オーストリア人医師カール・ケーニッヒは、スコットランドで、障害の有無にかかわらず人々が共同で暮らし、働いている共同体（キャンプヒル）を創設した。である。その理念は「全ての人間が持っている、身体特性から独立した健康な心理面を育む」というものである。ドイツには 11 のキャンプヒル共同体がある。また、人智学を基本とした施設・学校・サービスはドイツ全土に 263 があり、施設の形態は多様である（住居のみ、作業提供のみ、成人、子供など）。

【研修先について】

Gemeinschaft Altenschlirf はドイツ中部のヘッセン州フルダの西約 20 ㎞に位置する、木組みの家が大変美しい、酪農が盛んな地域にある。2022 年に設立 40 年を迎えた人智学共同体で、作業場所は Altenschlirf 村と Stockhausen 村に 12、住居はこの二つの村の間にある Schlechtenwegen 村も加えた 3 村に 15 ある。およそ 340 人が所属しているが、うち 140 人は障害のある人で、2 人が自宅、6 人が他の障害者施設で暮らしている。それ以外の人はみな共同体の住居に住んでいる。

Stockhausen 城を住居として使用している

城の付属施設である馬小屋等を改築している

城の庭園は誰もが散策できる観光スポット

上の写真を内側から見た様子。作業室と事務所

【織物部門（Wollwerkstatt)】(5 月 16 日～5 月 20 日)

作業内容：機織り、裂き織、再生紙づくり

商品内容：絨毯・椅子用クッション等（羊毛)、バッグ・ポーチ（木綿糸)、マット（裂き織)、飾り（窓用)、再生紙カード

設備等　：絨毯の織機７台（大４，小３、フィンランド製)、機織り機７台（スウェーデン製）染色用鍋、脱水機、シンク（大２台)、作業台（水気のある物用）他

絨毯の織機（大）縦糸に絡め、結び付けていく

裂き織機　古シーツを染色して使用

商品コーナー　誰でも自由に来店して購入できる

染色した糸を巻く作業

・糸巻、紙ちぎりは織り作業が難しい人（日本では生活介護相当）が携わっていた。卵パック使用。

・機織り、裂き織りの原理は日本と同じだが、自施設はさをり織りで、足踏み式（ペダル２本）の織機を採用しているのに対し、こちらでは足踏み式（ペダルが２～６本）とレバー式（織機の上部にレバーがあり、ペダルと同じ役割がある）があった。左右の耳を全員がきれいに織ることができていた。よれや縮みなくきれいな織りだった。